

知多半島



「赤門」の名で親しまれている半田商業高校正門の門柱。三月十日、赤門を含む県内十三校の門柱が国の文化審議会に登録有形文化財(建造物)として答申され、六月二十八日付の官報での告示をもって正式に登録された。

磯部幸司校長は「卒業生にとっても懐かしい存在のはず。これを機に足運んでもらいたい」。三年で生徒会長の山田諒さん(こ)は「半商の歴史として地域に広がり、より愛されるスポットになればうれしい」と喜ぶ。赤門は一九二一(大正十)年、知多郡立高等女

## 半田商業高の正門門柱

学校の正門として竣工した。高さ二・九五メートルで五十六センチ四方の主門柱が二本、高さ二・六メートルで四十五センチ四方の脇門柱が一本。表面に赤レンガのタイルが張られ、花こう岩が帯状に組み合わされている。主門柱の柱頂部には球状の照明器具が取り付けられている。

県教委生涯学習課文化



「赤門」と親しまれている正門門柱＝半田商業高で

間「開かずの門」だったという。

「歴史ある赤門を使わないのはもったいない」と声を上げたのは同校の卒業生たちだ。同窓会長を務める天木一馬さん(六五)＝武豊町＝は「歴代の先輩が通ってきた赤門が閉められたままで、さみしい気持ちもあった」と振り返る。現在地への移設費二百万円弱を同窓会費の積み立てでまかなう形で、二〇〇八年九月、四十七年ぶりに赤門が正門として復活した。

天木さんは「生徒としてくぐることはかなわな

# 「赤門」卒業後も誇りに

財保護室によると、同時期の鉄筋コンクリート造りの門柱に比べて大きさが七割程度と細身で、他の門柱と構造形式が異なることを意味する可能性が高いという。育館が建てられたことなから、敷地内の別の場所が正門が設けられ、赤門は閉鎖。それから長い

育館が建てられたことなから、敷地内の別の場所が正門が設けられ、赤門は閉鎖。それから長い(三宅千智)